

令和2年3月長浜市教育委員会臨時会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和2年3月4日（水） 午後3時30分～午後4時30分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	板山 英信
委員	井関 真弓（教育長職務代理者）
委員	西橋 義仁
委員	廣田 光前
委員	宮本 麻里

4. 欠席者

委員	美濃部俊裕
----	-------

5. 出席事務局職員

教育部長	米田幸子
次長兼教育総務課長事務取扱	岩田健
次長	横尾博邦
教育指導課長	伊藤浩行
すこやか教育推進課長兼学校給食室長	大田久衛
教育指導課主幹	長屋光彦
教育総務課長代理	今井健剛
教育総務課主幹	西川洋輔

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第1	会議録署名委員指名
日程第2	議案審議
日程第3	その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

廣田委員、宮本委員

3. 議案審議

「議案第2号 長浜市立小学校、中学校及び義務教育学校の校長及び教頭の任免の内申について」は、人事に関する案件であり、公にすることにより市民等の間に混乱を招くおそれがあることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき非公開としたい旨の発議が教育長よりあり、委員の全会一致で可決された。

議案第2号 長浜市立小学校、中学校及び義務教育学校の校長及び教頭の任免の内申について（会議非公開）

教育長は事務局に説明を求め、横尾次長から資料に基づき説明があった。特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり可決された。

4. 協議・報告事項

(1) 教育指導課長より、長浜市学校ICT環境整備について報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり

西橋委員：一番初めはITを進めるということが決められ、何年かしてICTになり、コミュニケーションの「C」という概念が入ってきたと思うのですが、それはここで示していただいた新しい長浜の学びの姿（「教える」から「学ぶ」へ）のところへ、その次の有効活用の中では、「共有化」というところに入るのでしょうか。機器を使うことによって一斉授業よりも効果的に進めることができるという考えだと思うのですが、私はもう少しコミュニケーションを重視してもいいと思います。その点をもう少し詳しく説明してください。

教育指導課長：色々な考え方があるとは思いますが、新学習指導要領の中に批判的にものを見る、ものを捉えるという言葉が50回以上使用されております。

今般の新型コロナウイルス騒動でもそうだと思いますが、日本人は非常に情報を鵜呑みにしやすい国民性であるそうです。これからは自分で考え、判断するという力を養っていかないと、情報に振り回されてしまうと思います。

幼いころから多くの情報を収集し、仲間と議論し、お互いの意見を交換し、正しい道を見つけていくという経験を多く積むことが必要だと思われます。

そのときに、今までの教育だけでは時間を要してしまうかもしれません。話し合う時間をより多く取るためには、どこかでスピード化が図られる必要があると思います。そういう部分ではICTというのは大変有効なツールであると考えます。

西橋委員：今説明していただいた中に批判的という言葉がありましたが、大人が一番初めにそういう体質になっていく必要があると思います。

例えば今回の新型コロナウイルスへの対応に関しても、長浜市で前日にきちんとした方針をつくっていただき、メールで報告いただきました。私はこれでいいと思いました。ただ、そのあとに総理大臣の発表で滋賀県のほとんどの市町村が右に倣えをしてしまいました。長浜はこうやりますよ、という批判的な雰囲気なぜ生まれなかったのか疑問に思いました。総理大臣の要請ですから、半分命令みたいな捉え方もありますが、果たしてそうでしょうか。

今の社会を見ていても、一つの方針が出たときに、それを批判的な目を見て、自分の言葉で表現するという場面は少なくなってきたのではないかと心配をしています。

これからの社会は、まず自分の考えをしっかりとって、それを発信し、みんなにわかってもらおう努力をする社会になってほしいと思っています。

教育指導課長：西橋委員のおっしゃったとおりで、今の話を校長会の最後の挨拶の中でお話してきました。

この新型コロナウイルスに対する対応は、誰も経験をしたことがないことですので、何が正解で何が間違いかはわかりません。明日にも状況が変わっているかもしれません。その場その場で我々教育委員会も各学校の学校長も、状況を判断して方針を決めなければならないという場面に遭遇をしています。社会全体が試されている時なのだろうと感じております。

教育長：トイレトペーパーの不足についても、デマが随分流れました。あるお店に行った時に、十分在庫があるという説明があるのに、4つぐらい抱えて買う方がおられました。主体性がない、流されてしまう部分があるように思いました。

西橋委員：私にも「感染しないために27度以上のお湯を飲みましょう。この情報をできるだけ多くの人に拡散してください。」という連絡が回ってきました。疑問に思いましたので誰にも拡散しませんでした。非常に長い文章で信じてしまうような内容でした。

5. その他

(1) 教育部長より、新型コロナウイルス感染症への対応について報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり

西橋委員：前回の総合教育会議で、放課後児童クラブの話があったのですが、今利用している子が市内の小学生全体の3分の1ぐらいだという報告がありました

た。現在の状態になって、それよりも増えているのでしょうか。

教育部長：現在子育て支援課は、通年で利用される方を対象にしています。利用申請していない子どもは対象としていません。春休みになったらもっと人が増えるのですが、その子たちは前倒しで受け入れをしています。

西橋委員：年度当初に申し込んだ子だけを対象にしているということですか。

教育部長：現在はそうです。

西橋委員：わかりました。

岩田次長：健康福祉部から聞き取りしましたが、今日現在で登録数の約17%、216名が来られているということです。

西橋委員：そこに来ている子は全体から見たらごくわずかです。多くの生徒が家に待機をせざるを得ないという状況ですので、そのあたりの監視をしっかりとる必要があるのではないかと思います。

教育部長：そのあたりは学校と連携しながら動いていく必要があると思っています。

西橋委員：校長会を連日やっていただいて大変ご苦労様です。各学校でも色々な決断をしなければならない場面が多々あると思います。

今私が一番心配をしているのは、修学旅行をそろそろ決めないといけないということです。4月の予定のところが多いと思うのですが、学校としては大きな課題として悩んでおられるのではないかと思います。修学旅行に関しては、1回目に市の方針が出たときに学校に対応してもらうという方針が出たようですが、今でもそれは変わらないのですか。

横尾次長：現段階で全ての学校が延期の判断をされました。昨今の状況から、9月から11月頃に内容も一部変更して実施するという事で決めていただきました。

西橋委員：賢明な判断だと思います。卒業式はどうでしょうか。

横尾次長：このままの状況であれば、人数、時間、内容等は十分精査をしながら、全ての小中学校で従前どおりの期日で実施させていただきます。大事なイベントですので、健康安全を第一にしつつ、子どもたちにとって良い卒業式にしてあげたいという思いで準備を進めているところです。

教育長：修学旅行に関しては、実施について、延期等の方法を各校の事情にあわせて考えてくださいと要請をしました。特に混乱はありませんでした。

卒業式に関しては、こういう時期だからこそできる卒業式を考えていただきたいと校長先生にお願いしています。感染防止の観点から在校生の出席をやめることは、これはこれで結構ですが、在校生が卒業生を送りたいという気持ちをどのように卒業生に持って帰ってもらうかが大切です。

北海道の酪農学園大学附属とわの森三愛高校のニュースを見て感動しました。卒業式は中止になったのですが、ネット配信で先生が卒業生の名前を読み上げ、校長先生が卒業証書を渡すという動画を見て、本来の卒業式ではないが、何よ

りもその学校の卒業生が先生たちの気持ちを受け取ることができたと思えました。今学校の管理職はリーダーシップを発揮すべき時だと思います。

放課後児童クラブの件でも、小学校の校長先生に協力をお願いしました。私たちにできることはやろうとみんなまとまってくれたのはうれしかったです。

私の教え子から連絡があったのですが、学校の臨時休業の対応として、ママ友どうして、当番制で子どもたちの面倒をみているというところも結構あるそうです。

先日の認定こども園の視察の帰りに、おばあちゃんと孫が畑仕事をしていました。こういうこともこういう機会じゃないとできないのかなと思えました。また、信号待ちでとまった交差点のところにあった公園を見ると、4、5人で小学生が遊んでいるし、小学校の横を通ったらグラウンドで10人ぐらいで球を蹴っているのを見ました。今の子どもは案外このように、さあ今日何しようという時間があるようではなかったのかなという気がします。

いい機会なので、学校の先生もそういう情報を聞いて、今後の参考にさせていただきたいと思います。

井関委員：中学3年生につきましては、これから進路を決定していくという大事な時期でしたが、その点についてはどうでしょうか。

横尾次長：入試の日程につきましては従前どおりですが、当日だけ子どもたちを送り込むわけにはいきませんので、学校ごとに事前に分散して集めたり、自宅訪問したりして、事前の指導をしています。当然当日も現地で先生方が迎えてあげるということを、各中学校は丁寧に対応していただいています。

西橋委員：来年度のこと頭置いておくほうがいいのではないかと思います。

入学式ができるかどうか、今よりも状況が悪くなったら、国の方針として延長になることも考えられます。

教育長：両面から考えています。例えば長浜で感染者が出ていない、子どもたちも健康である、こういう場合を想定したケースと、今おっしゃったように、感染が拡大してきた場合、例えば卒業式も含めて来週ぐらいに市内で感染する子どもが出た場合についての対応など、様々なケースを想定しながら準備しています。

廣田委員：このコロナウイルスに関しては、今日本は国難の時期です。今日の新聞を見ると21の国が日本人を入国拒否していて、WHOは日本を4つの危険な国のうちの一つだと言っています。

私たちがどうすればいいかということは、今政府が一生懸命考えています。国民も一致団結しないと、ウイルスに勝てないです。コロナウイルスは全く新しいウイルスです。今までのウイルスとは全然性格が違います。正しい知識を持つことと、噂に流されないことはとても大事です。

例えば、長浜にコロナウイルスが入っているという噂は結構ありました。温かいものを飲んだら体にいいという噂も出てきていました。

台湾の副大統領は医者で、公衆衛生の専門家です。台湾は最初からしっかり対応していました。

例えば、マスクに関しては、政府で買い上げて、1人に対して決められた数しか渡しません。健康保険証の番号から振り分けをします。あとは1人発見したら必ず追跡検査をしています。換気もとても大事です。

先日、日本政府が発表した感染予防対策はすごく参考になります。市が正しい知識・情報を市民に伝えることはとても大事です。

また、再燃という言葉があります。このウイルスは一旦よくなってもまた再発することがあります。鼻水やたんはないです。最初は風邪の症状があって、微熱があって、何日かたってから、苦しくなるみたいです。

特徴が色々あるため、コロナウイルスの正体がだんだんわかってきています。正しい対応をすれば心配ありません。正しい知識はとても大事です。

7. 閉会

教育長から閉会宣言があった。

会議録署名人

令和 年 月 日
